

図 1 DNR (DNAR) 教育経験の有無 (n=364)

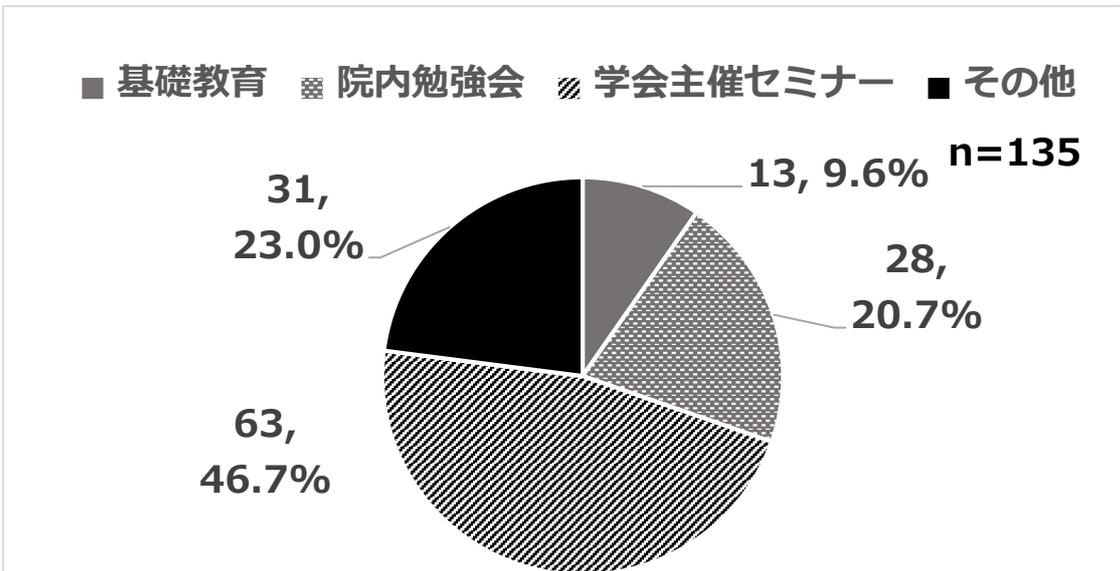


図 2 DNR (DNAR) の教育を受けた場所

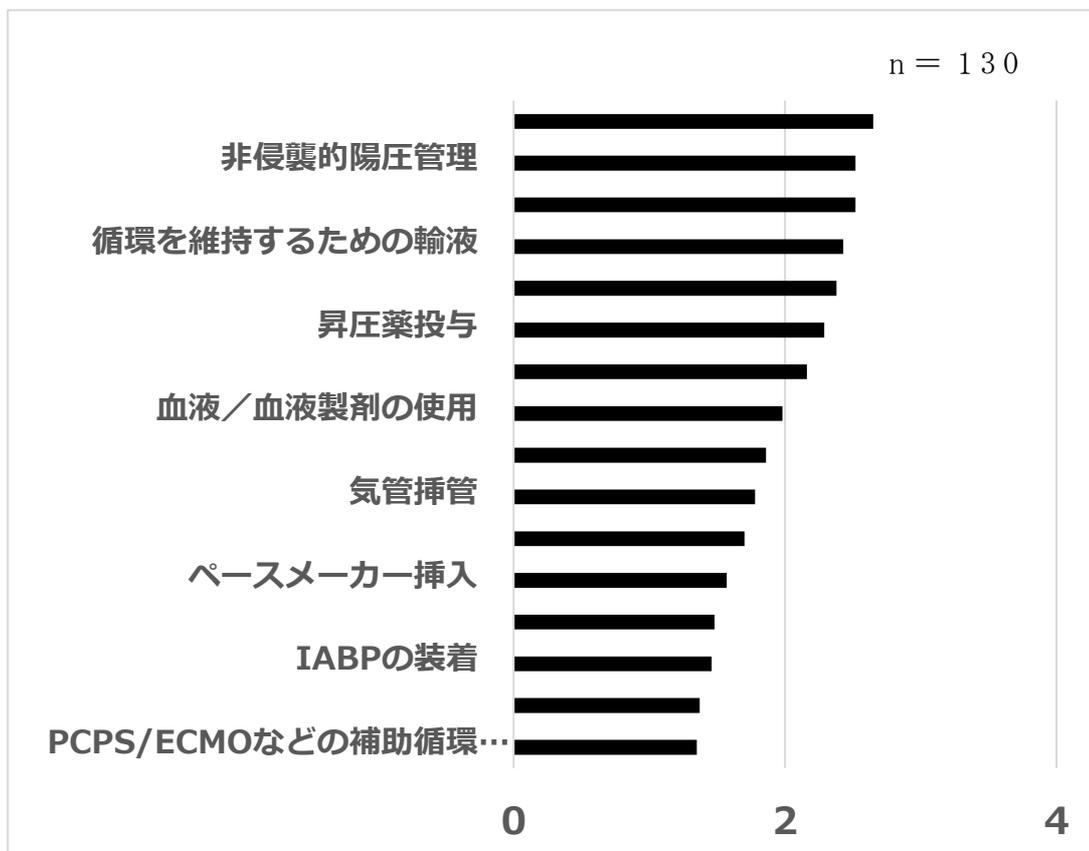


図 3 . DNR (DNAR) 指示が出た際に、治療の終了または減量、差し控えを行う頻度 (平均値)

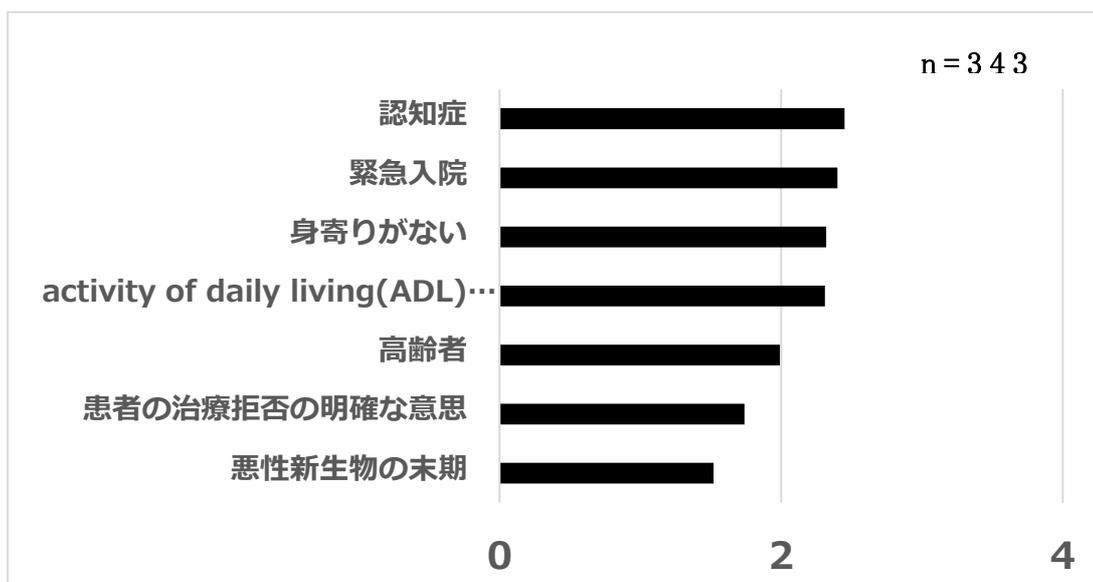


図 4 DNR (DNAR) を検討する患者状況 (平均値)

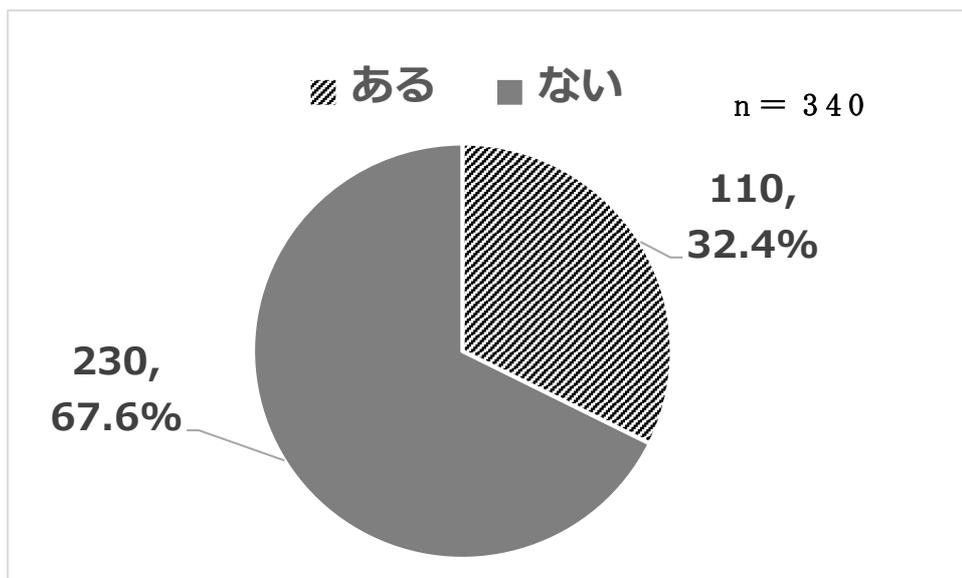


図 5 図 4 の患者状況以外で病気の重症度に関わらず DNR(DNAR)を検討する患者状況の有無

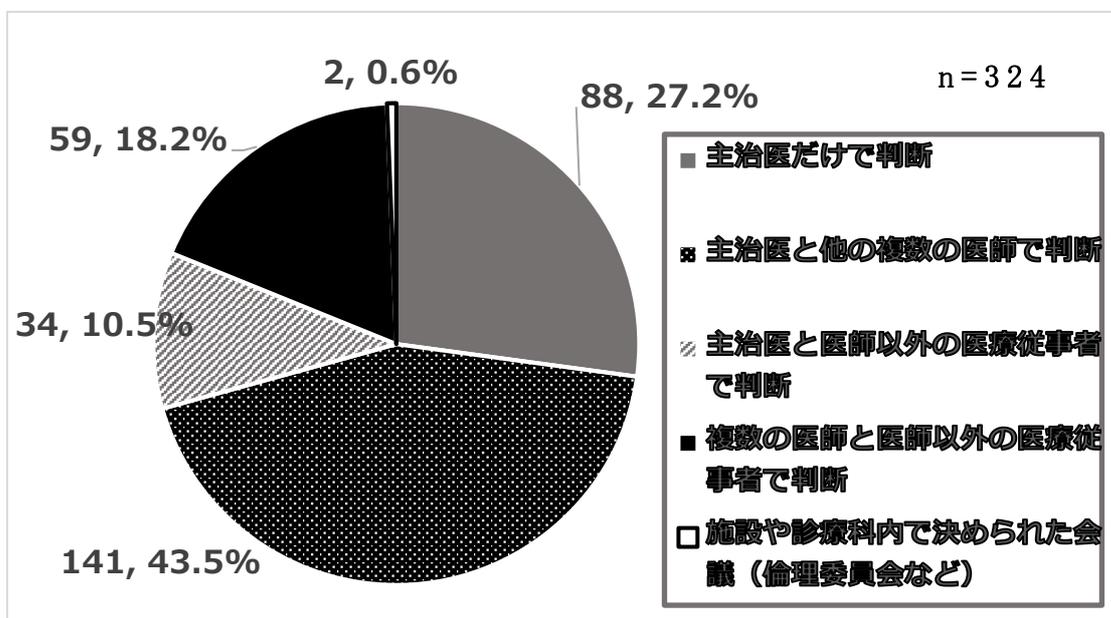


図 6 DNR(DNAR)を判断する人

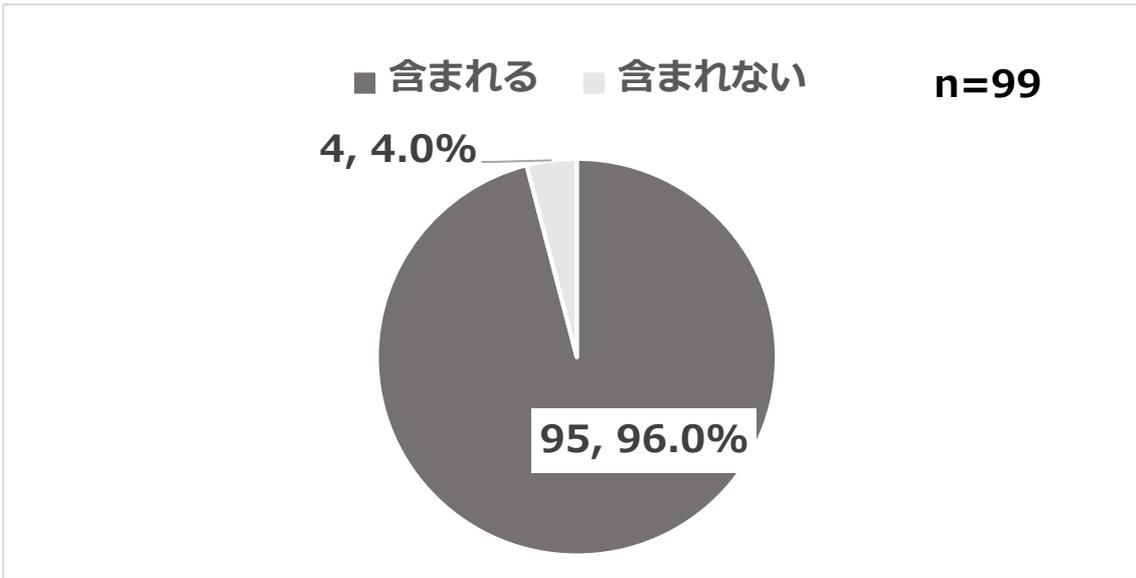


図 7 DNR (DNAR) の決定の際に医師以外の医療者に看護師は含まれるか

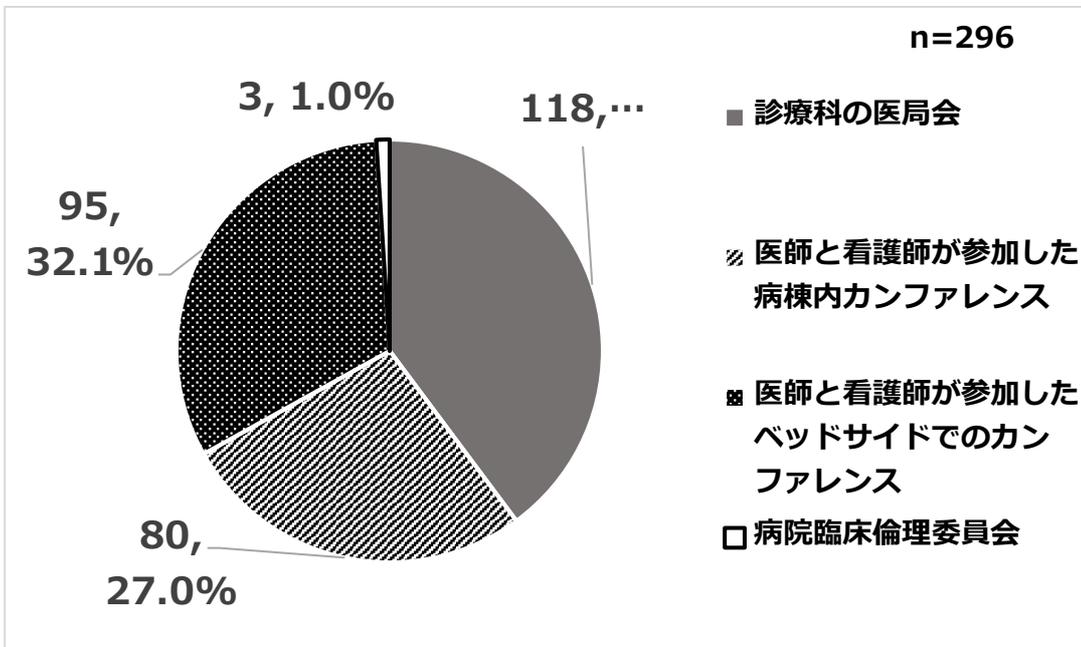


図 8 DNR (DNAR) が検討される場所

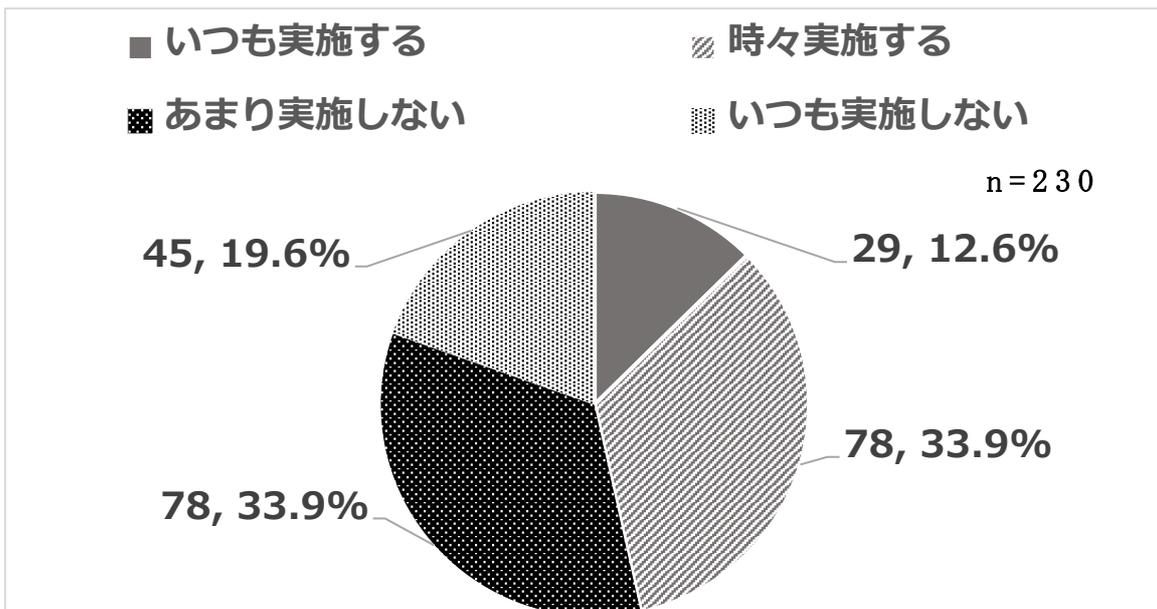


図 9 医師・看護師を含む医療チームでカンファレンスを持つ頻度

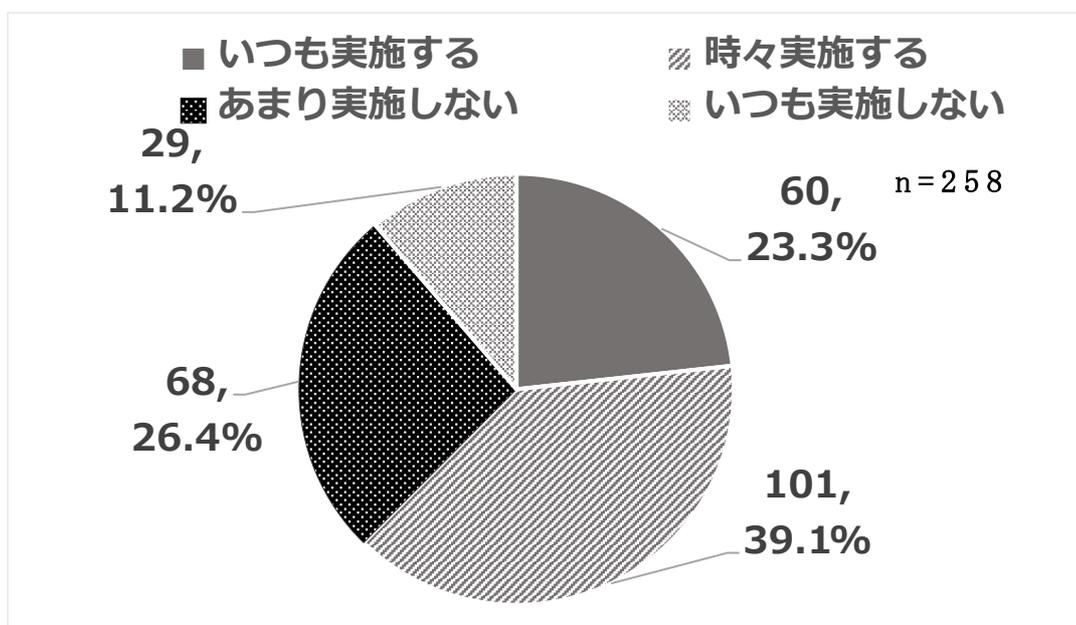


図 10 看護チームでの話し合いの場を設ける頻度

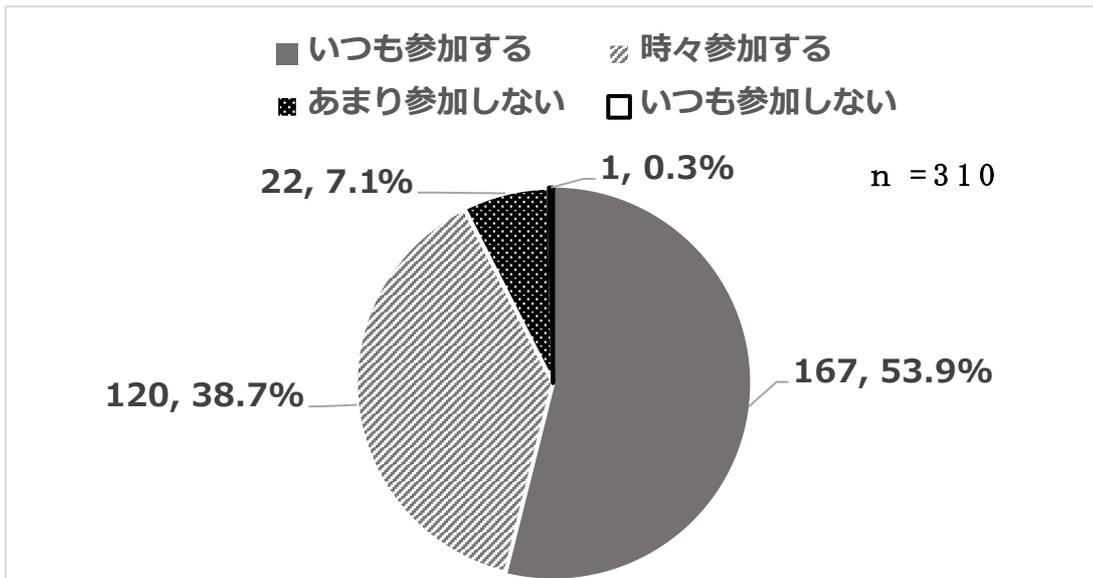


図 11 患者・家族との話し合い（インフォームド・コンセント）に看護師が参加する頻度

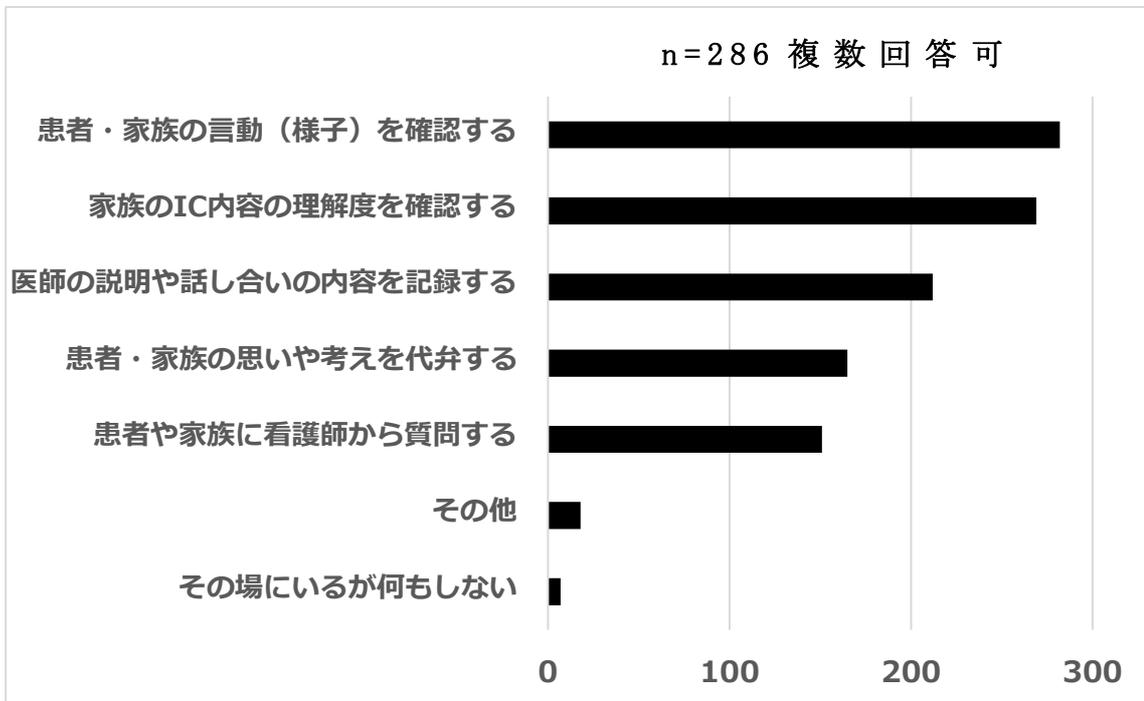


図 12 インフォームド・コンセントに参加した看護師が行うこと

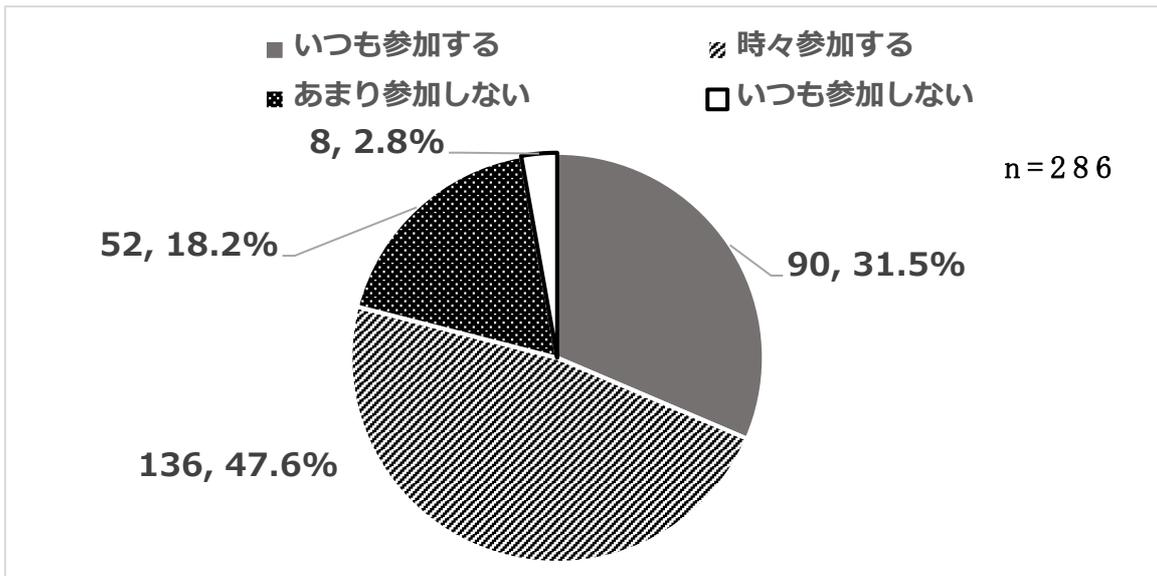


図 13 夜勤帯にインフォームド・コンセントが行われる際に看護師が参加する頻度

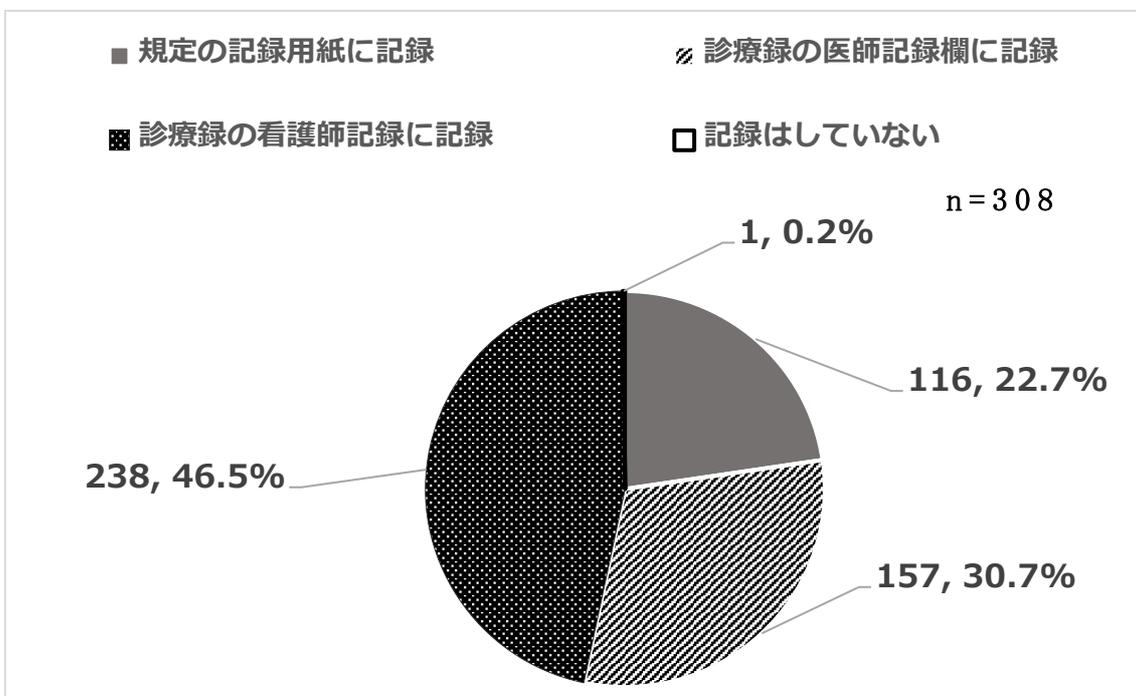


図 14 医療チームの話し合いの結果をどのように情報共有しているか

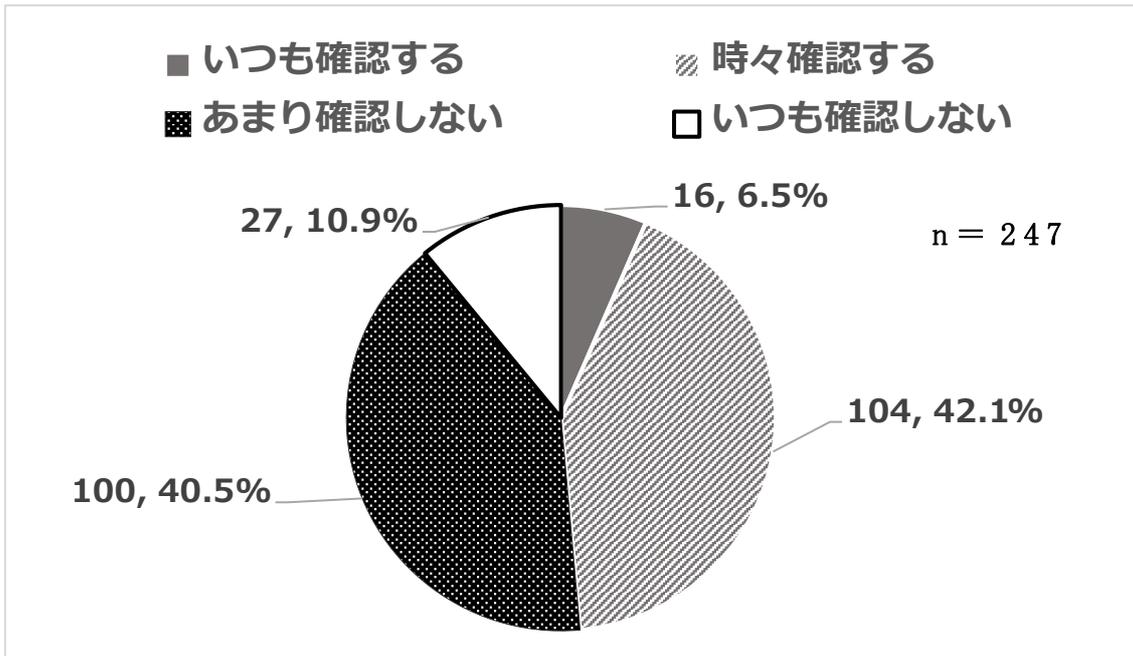


図 15 患者に DNR (DNAR) の意向を確認する頻度

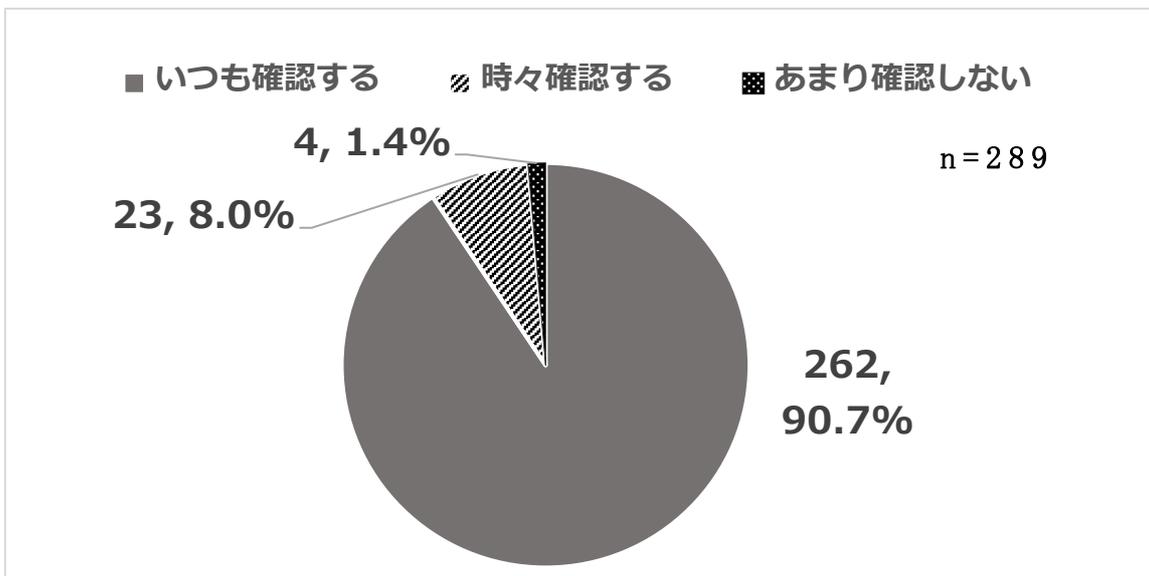


図 16 家族に DNR(DNAR)の意向を確認する頻度

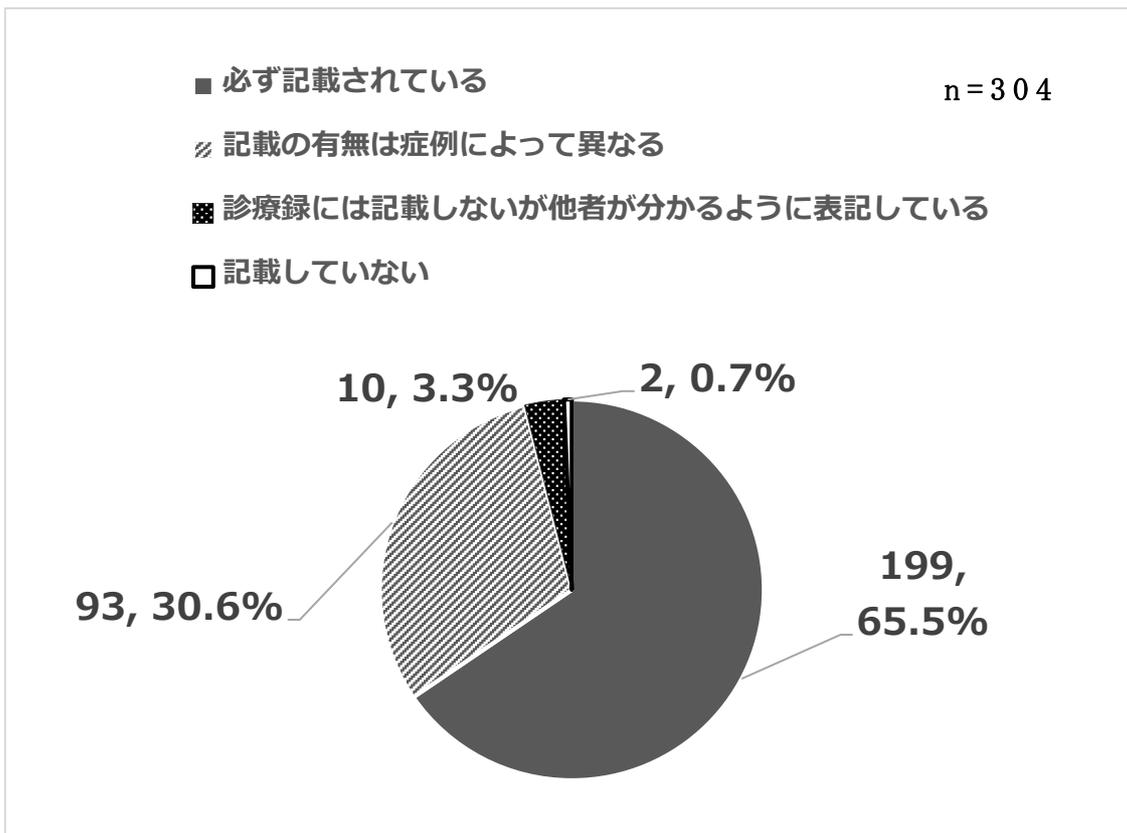


図 17 DNR (DNAR) 指示は診療録にどのように記載されているか

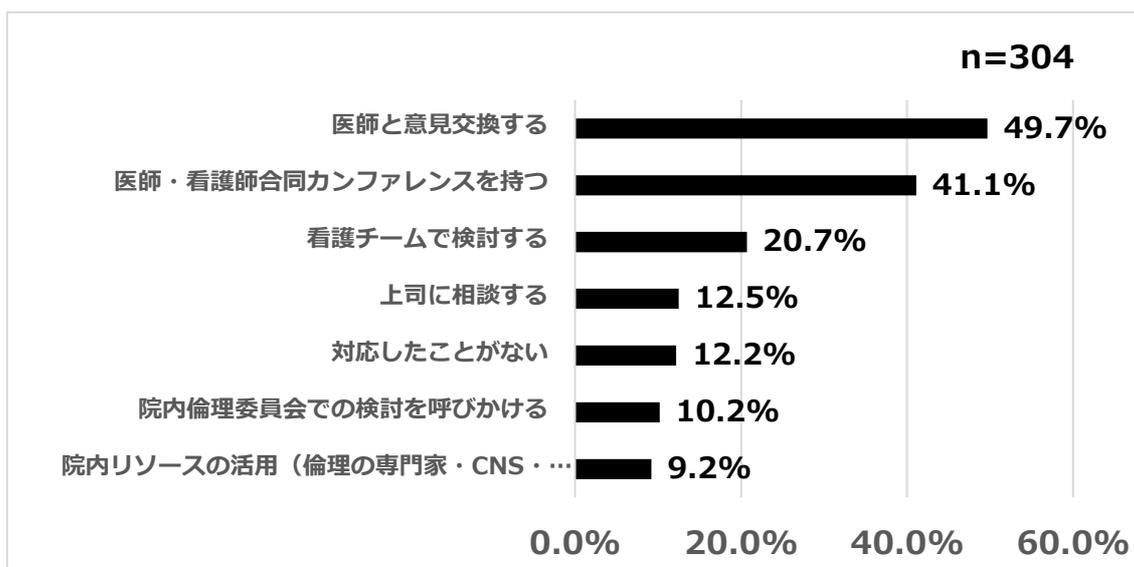


図 18 医師と意見が対立した場合どのように解決しているか

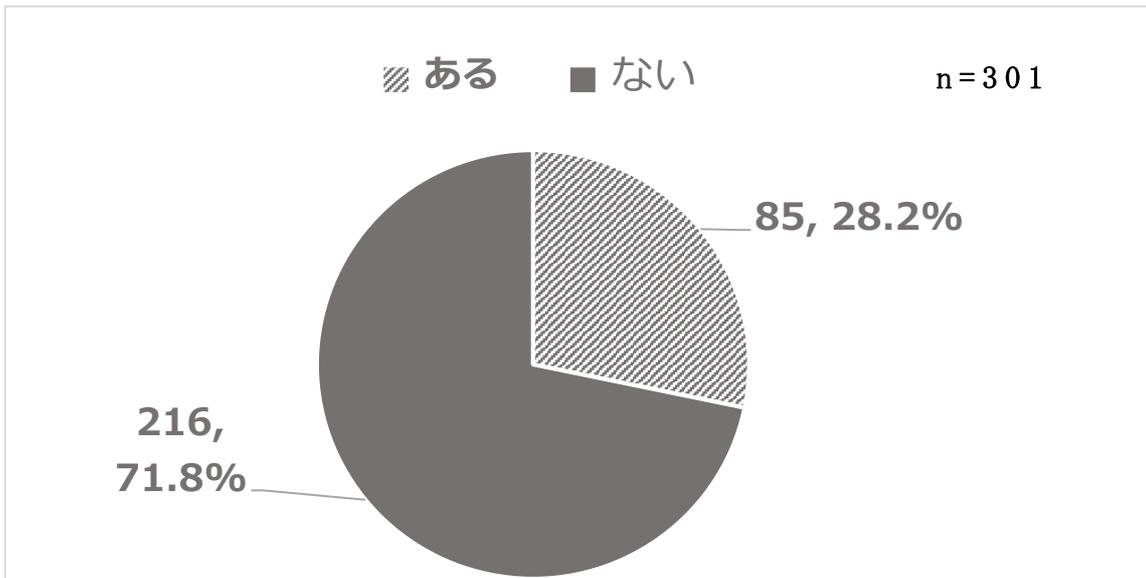


図 19 DNR (DNAR) マニュアルの有無

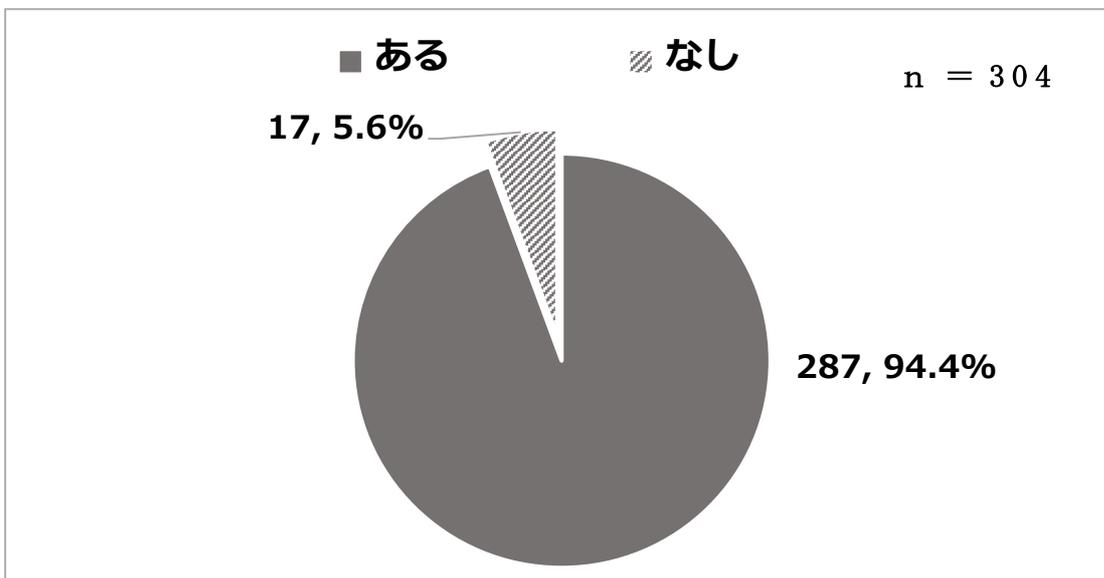


図 20 これまでに DNR (DNAR) に関連したジレンマや困難感を抱いたことがあるか

表 1

対象者の背景

n=384

項目	
設立母体	
大学病院	134 (34.9)
国公立病院	82 (21.4)
上記以外	168 (43.8)
病床数	
300床以下	42 (11.1)
301～500床	115 (30.3)
501～750床	109 (28.7)
751～1000床	73 (19.2)
1001床以上	41 (10.8)
年齢	
20代	32 (8.7)
30代	167 (45.3)
40代	138 (37.4)
50代	28 (7.6)
60代	2 (0.5)
70代以上	2 (0.5)
性別	
男性	79 (21.4)
女性	290 (78.6)
集中治療室での平均経過年数 (平均±標準偏差)	9.45 ± 5.2年
所属部署	
外科系 ICU	
内科系 ICU	31 (8.4)
General ICU	8 (2.2)
救急 ICU	106 (28.8)
心血管系 ICU	74 (20.1)
脳疾患専門 ICU	25 (6.8)
小児 ICU	4 (1.1)
一般病棟	9 (2.4)
その他	32 (8.7)
	79 (21.5)
職位	
スタッフ	203 (55.8)
主任・副師長	105 (28.8)
師長	56 (15.4)

専門資格	
なし	188 (51.1)
認定看護師	139 (37.8)
専門看護師	41 (11.1)

表 2

看護師が DNAR についてジレンマや困難感を感じた内容
(自由記述式回答)

家族や患者の思いが不明確な中で、医者が治療を進めていく状況
家族と医師との考えに温度差がある状況
医師が無理に DNAR に持っていこうとする状況
医師の間での意見のちがいにより、方針が決定できない状況
医師だけで方針が決定されていく状況 (看護師の意見を聞いてくれない)
医学的限界を超えた医師の治療により、患者の苦痛が緩和できない状況
患者の思いが尊重されない状況
家族間での意見が別れた状況
本当に終末期なのか、救命の可能性があるのでに医師の判断で DNAR が決定される状況
DNAR だからと全ての治療が差し控えられる状況
DNAR が決定した後、医師が患者への興味をなくしてしまう状況
医師からの IC の内容に疑問を感じる状況
医師の心無い言動
それまで疎遠であった身内が急に現れ、それまでの家族の意向に反対する状況
DNAR だからと看護ケアに手を抜く看護師がいること
DNAR が決定しているのに full コードで蘇生処置が行われることがあること
救命が困難な状況でも家族の意向が強く積極的な治療が行われる状況